

市立中37校と3図書館に50冊

涌田夫妻、「相模原事典」寄贈



相模原市南区相武台在住の涌田佑さんと妻・久子さんは3月27日、相模原市役所を訪問し、同市の歴史や地誌、人物などを五十音順にまとめた「相模原事典」(A5判281ページ)を市立中学校37校や図書館3カ所に計50部寄贈した。

加山俊夫市長は事典を受け取ると、「相模原市の成り立ちが分かり、これからの自治体運営の貴重な資料になるのでは。子供が教科書の副本として利用できる環境や機会を整えたい」などと絶賛し、「変わりゆく相模原も研究して、これにつながる別冊の発行も期待している」と述べた。

鞭を取りながら郷土史を研究し、市史編さん審議会委員も務めた。

事典は、夫婦で市内を巡り、約20年に渡って資料収集やインタビューを重ねた。「多くの人の目に触れて」と相模経済新聞で2004年から連載したもので、連載中にあつた津久井郡4町との合併も加筆した。歴史や地誌、自然、風俗、人物など1300項目に及ぶ。

佑さんは「議会政治の父」と言われた尾崎行雄(号堂)、蘭方医・伊藤方正など市内出身の人物について研究する一方、作家・井伏鱒二の文芸評論家としても著名。久子さんは市内の小学校で教

カラー版は完売となり、モノクロの廉価版(1800円)を増刷している。問い合わせは、日相出版042・748・6020。

育